

第5回スマートシティ推進協議会資料

- 第1回協働プログラム実施報告（p.2~p.34）
- 第2回・第3回協働プログラムの企画概要（p.35~p.42）

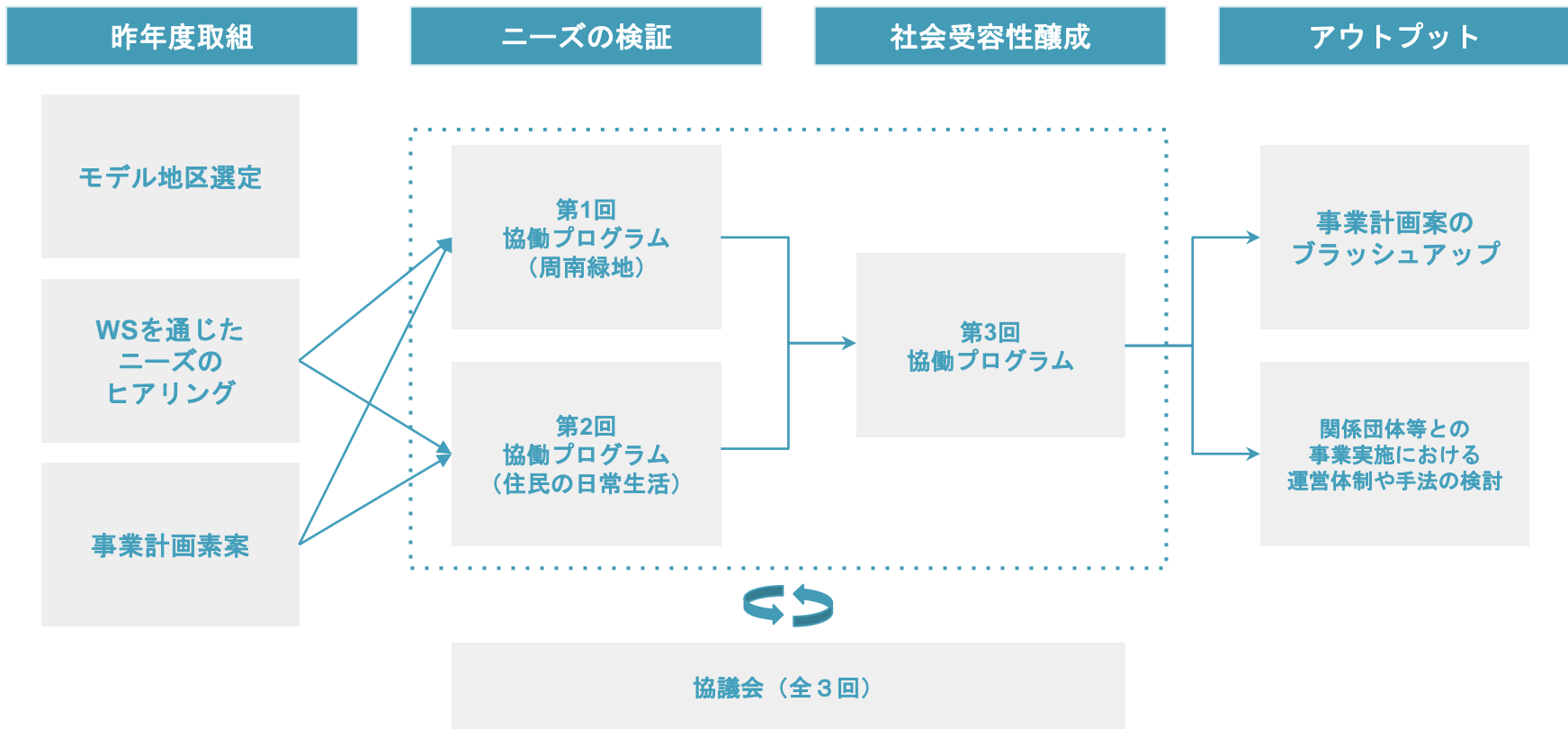


第1回協働プログラム実施報告

第5回 周南市スマートシティ推進協議会

令和5年1月20日（金）

市民参加型の「協働プログラム」と有識者による「スマートシティ推進協議会」の実施を通じて、市民参加型スマートシティの構築を目指していく。





地理院地図を加工して作成



周南体育協会HPより

モデル地区：周南緑地や学校、団地などにより構成されている。
周南緑地：東京ドーム17個分の広さ。陸上競技場、野球場を含むスポーツ施設が数多くある。

→野犬問題、憩いの場づくりや安全対策が課題として挙げられている。



昨年度実施のワークショップであがった市民の声から課題を抽出し、
今回のイベントで実施する施策案を策定した。

「地区全体で、危険な場所を無くす対策をする(街灯や見守りカメラの設置など)」
「フレンドパークの混み具合を見える化したい」
(→AIカメラをこれらの課題施策候補として位置づけ、性能検証について実施。)



AIカメラ設置

「ウォーキングイベント等には景品があると参加しやすい」
「緑地内にランニング・ウォーキング周回コースを設定する。」
「ウォークラリーのチェックポイントがあるとよい」



デジタル
スタンプラリー

「公園で遊んでいるときの休憩などで利用できるキッチンカーがあるといい」
「緑地に人が来やすくなる工夫が欲しい」
「景品をデジタル化する」



キッチンカー
の出展

「公園内の移動支援がほしい」
「企業が地域の行事の支援」



超小型EV試乗

市民の声に応える施策を打ち、持続的な活動にしていくためにコンテンツ需給に関わる三者からのフィードバックを得ることを目的としている。

AIカメラ設置

デジタル
スタンプラリー

キッチンカー
の会展

超小型EV試乗

The poster is titled "スマート体験イベント in周南緑地" (Smart Experience Event in Shonan Ryugasaki Park) and includes the subtext "周南緑地が新しい使い方を発見しよう！" (Let's discover new uses for Shonan Ryugasaki Park!). It features three main activity icons: a red car for "超小型EV試乗体験" (Ultra-small EV test drive), a truck for "キッチンカーの出展" (Kitchen truck exhibition), and a stamp card for "デジタルスタンプラリー" (Digital stamp rally). The event is scheduled for 2022年 11/26(土) to 11/28(月) from 11:00-17:00 at Shonan Ryugasaki Park. It also lists the venue as "フレンドパーク前 (イベント総合受付)" and "水泳場前駐車場 (駐車場)".



コンテンツ需要側
(市民・利用者)



コンテンツ供給側
(事業者)



運営者

コンテンツ供給



キッチンカー



超小型EV試乗

回遊促進・滞在時間増加



クーポン発行・利用



デジタルスタンプラリー

データ取得・分析



AIカメラによる人流解析



Horaiを用いた位置情報解析

園内3ヶ所にAIカメラを設置して、会場内歩道の人流や、飲食スペースの滞在人数を解析し、ピーク時間帯や曜日ごとの比較を行った。



取得可能データは以下の通り

- ・ 属性（年代・性別）
- ・ 滞在時間（属性ごとに取得可能）

検証項目

- ・ キッチンカー企画の評価検証
- ・ 歩行者に対する分析の検証
- ・ カメラの性能評価（距離、明るさ、属性解析）
- ・ AIカメラに対する住民の受容性評価

利用者と通行者を以下のような条件で判別している（AIカメラ委託先説明より）

- ① 指定したエリア内に胴体の中心がある人
 - ② 性別・年齢が判定できた人
- ※性別判定不可は通行人として判定する
- ③ 上記2点を1秒以上満たしている人を利用者としてカウント

企画①：AIカメラ：社会受容性評価

AIカメラ設置にともなう事前告知および当日の掲示については、細心の注意を払い設置しました。
AIカメラに対して関心をもつ市民の方もおり、仕組み等について質問されることもありました。



会場図

各会場のコンテンツ

フレンドパーク前：イベント組合受付（スタンプラリー受付）・キッチンカー
水泳場前駐車場：超小型EV試乗（受付）・キッチンカー
遊歩道前：キッチンカー

（※試乗は土日の11:00-12:00、12:00-16:00のみ実施。全日受付待ちもあります。）

AIカメラで人の流れを計測します！

イベント開催時は、観客を用いた人流の解析を行うためのカメラを5台（撮影エリア3箇所）公園内に設置予定です。カメラの設置場所および撮影対象エリアは上図の赤線で囲われたエリアです。設置されるカメラによって、IPL/TARA（赤外線）が画像データを取得し、公園利用者の人数・性別・年代層在時の情報を抽出します。なお、プライバシーに配慮し、必要な情報を抽出後、速やかに画像データを破棄しますので、抽出した情報から個人が特定されることはありません。今回得られたデータは、周南緑地におけるニーズの把握や今後の事業計画に活用されます。データの共有用途は、本イベント主催者、周南市、周南市スマートシティ推進協議会及びそのらの指定する機関・団体に限定されます。

※本周南緑地公園事業所内で運用中の防犯カメラを参照します。
※個人及び団体の区域にて運転を希望する方は、別途自動車免許が必要ですが、本事業は、反社会的スマートシティ推進協議会の協賛事業です。

主催・お問い合わせ：周南内洋上都市ビジョン協議会 広域スマートシティWG
E: shunan.smartcity.promotion.sv.office@schemeverge.com

告知用チラシ裏面および掲示ポスター



AIカメラ足元に設置



解析範囲を示す



迂回が必要な方への注意

設置の様子



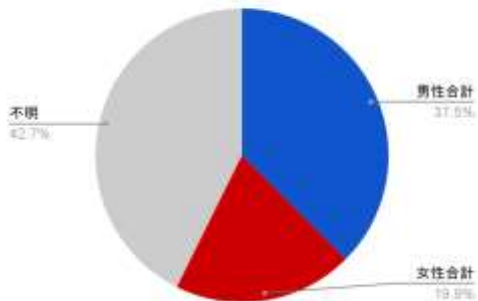
企画①：AIカメラ | フレンドパーク前実証環境

歩行者に対する人流分析（「周南緑地1」）や、キッチンカー利用・滞在者に対する分析（「周南緑地4」）をフレンドパーク前の会場において実施した。

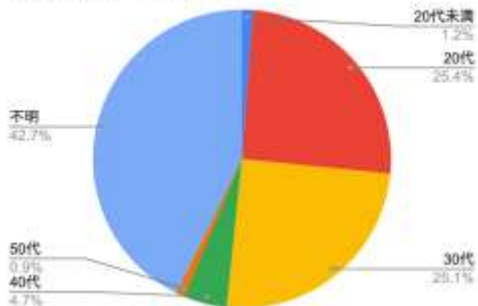


フレンドパーク前において、歩行者の人流分析を行った。20代・30代の割合が多いという結果が出たが、属性不明の割合が40%強となっており、属性分析の難しさも浮き彫りに。

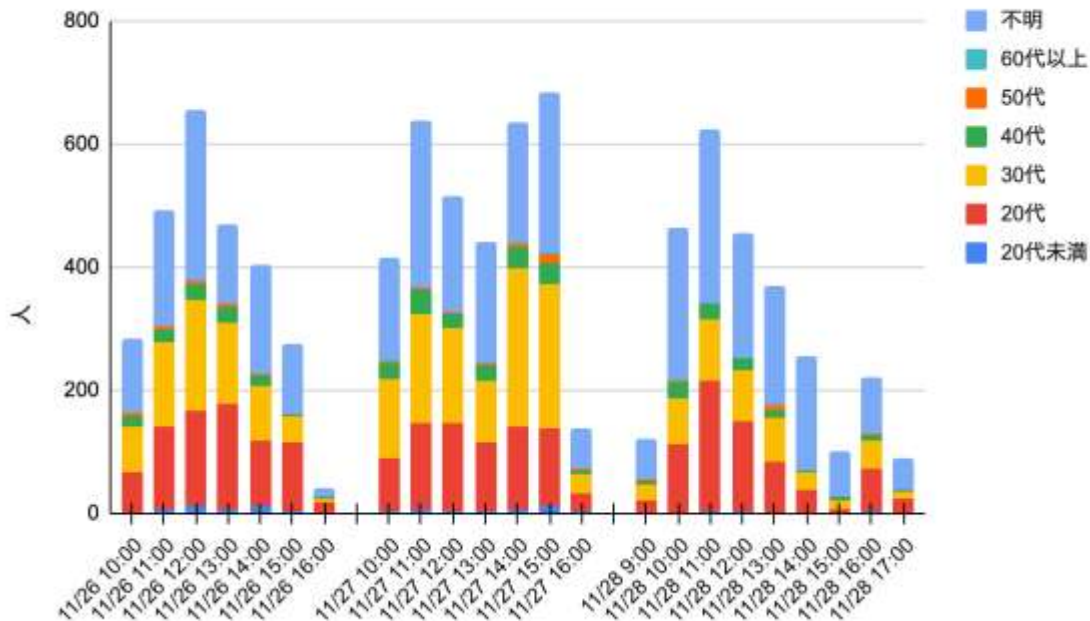
周南緑地1 性別割合



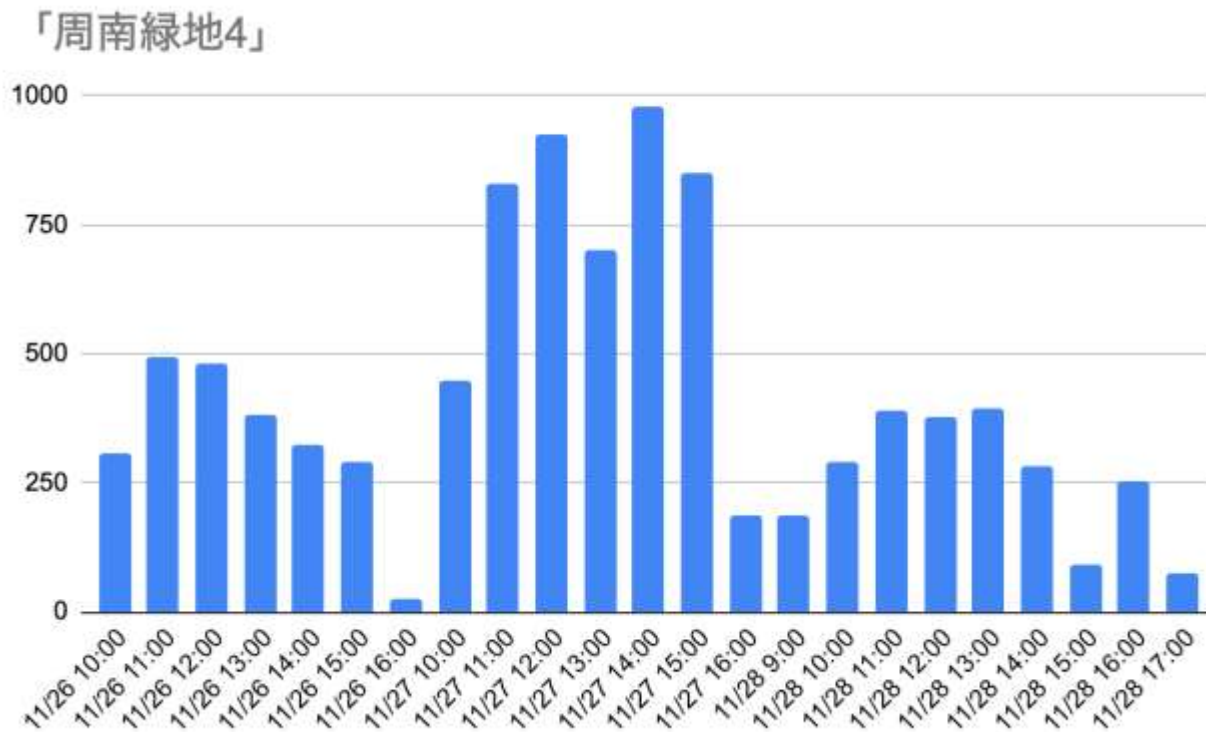
周南緑地1 年代割合



年代別積み上げグラフ (周南緑地1 / 全体)



フレンドパーク前の飲食スペース利用者数について分析した。日曜が特に利用者数が多い。



フレンドパーク前と庭球場前をつなぐ歩道に対して、歩行者の人流分析を行った。

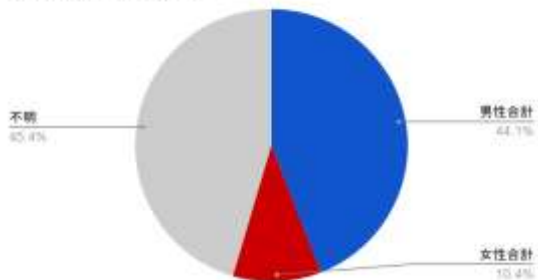


● 属性ユニーク

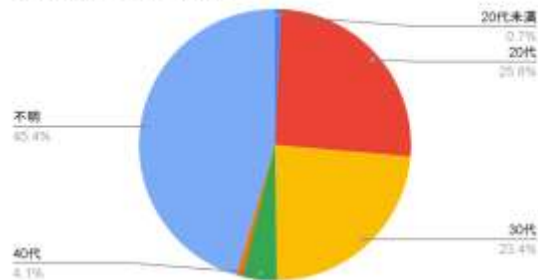
地理院地図を加工して作成

こちらでも20代・30代が多数を占めるという結果を示しているが、属性不明が45%となっており、属性分析の難しさが浮き彫りに。人数を見ると、他の場所と比較して人の往来は少ないことがわかる。

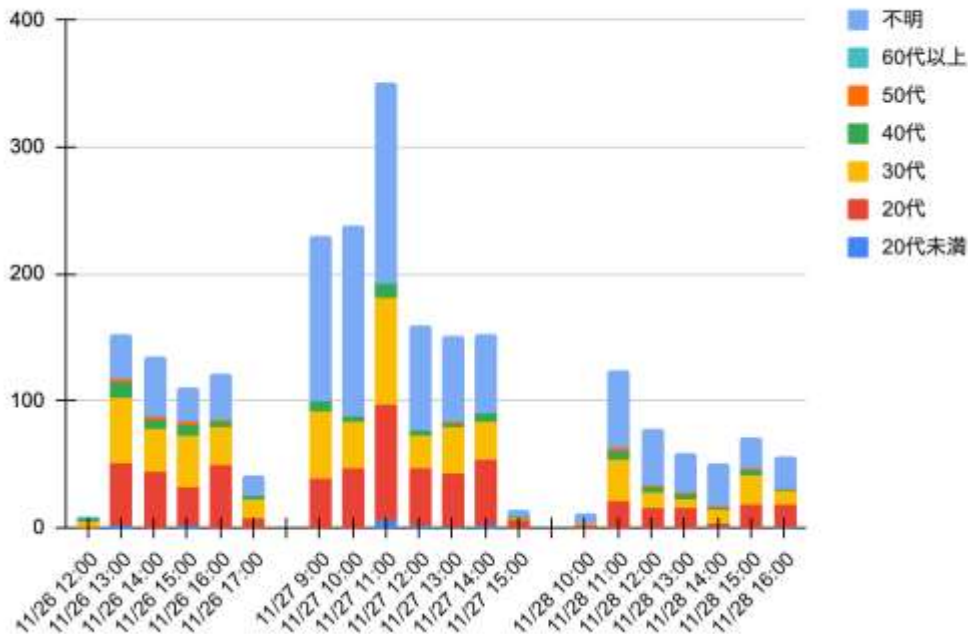
周南緑地2 性別割合



周南緑地2 年代別割合



年代別積み上げグラフ (周南緑地2 / 全体)



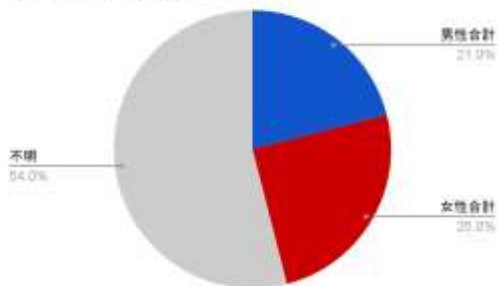
庭球場前の飲食スペースの滞在者分析を、属性分析つき・なしの2つのタイプのカメラにより行った。
これにより、2つのタイプの性能の比較を行う。



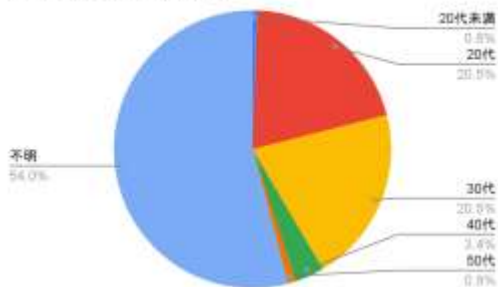
- 属性ユニーク
- ユニーク

庭球場前と比較すれば、土曜日・日曜日ともに多くの利用者がいた。しかし、平日にはお昼時を除き利用者の数は激減。

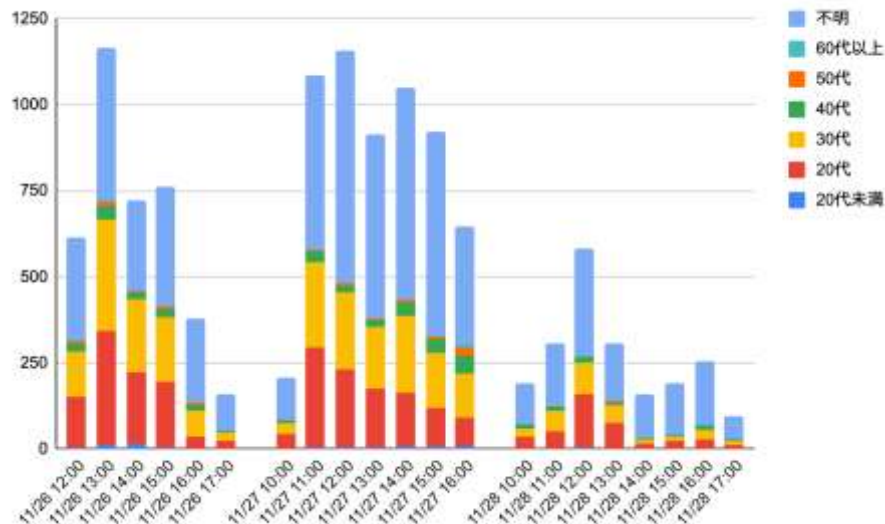
周南緑地3 性別割合



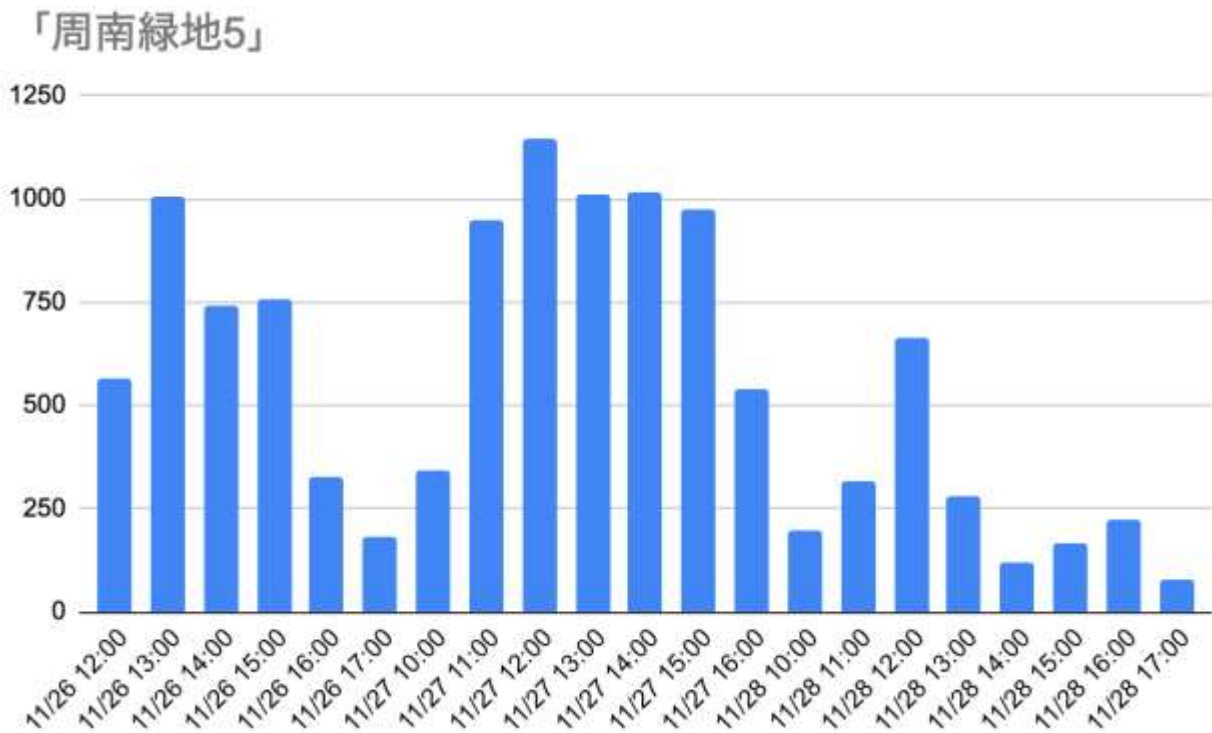
周南緑地3 年代別割合



年代別積み上げグラフ (周南緑地3 / 全体)



AIカメラ「周南緑地3」とおおよそ同じ結果を表しており、属性分析あり・なしの差は人数カウントには影響をあまり与えないと考えられる。



属性不明が半数近くになっている

- カメラの設置方向とは異なる方向に歩く歩行者など、属性の分析が困難な場合が多い。

正確な利用人数把握の難しさ

今回、滞在している間は同じ人物としてカウントできるような「ユニークカウント機能」のついたAIカメラを利用したが、カメラの視野から出てしまったり、人物の方向が変わることによって異なる人として認識してしまったりして、実際の利用者数よりも大きな数字が利用者の数字として出ていると思われる。

フレンドパーク前と庭球場前の比較

- 両方の場所に関して、26日は13時頃に利用が集中しているのに対して、27日は13時ごろは少なく、むしろその前後に利用が多い。キッチンカー事業者が指摘するとおり、その日、その時間にどこでイベントがあるか、ということが大きな因子となっていることが考えられる。

野犬対策としてのAIカメラ利用について

- AIカメラ提供企業から、ある程度明るい環境でないと検知は難しいという意見が出た。そのため、夕方にかけて増加する野犬への対策として、AIカメラを利用するためには大きな障壁があると考えられる。
実際、28日に17時以降もデータを取得してみたが、極端に人数が少なく、これが日没(17:04日没)にともない人物検知が難しくなったという可能性がある。

企画②：アプリを用いたデジタルスタンプラリー：企画概要

外出・運動促進への市民の声に応える形の企画。また、システム内の統合IDによって、スタンプラリー参加特典を他企画で利用可能という仕組みの実証実験でもある。3日間を通じて、65人が参加。



位置情報やNFCタッチデータが取得されている

企画②：アプリを用いたデジタルスタンプラリー：企画概要

緑地利用者への告知や、スタンプラリー参加者への配布を目的として、特典とマップが記載されているチラシを作成しました。各スポットには親しみやすい名前をつけました。



「スマート体験イベント in 周南緑地」 デジタルスタンプラリーで緑地内をめぐる!

手順1：Here!アプリをダウンロードしよう!
※デジタルスタンプラリーで使用するHere!アプリをダウンロードします。

手順2：緑地内のポイントをめぐる!
※各ポイントの名称は緑地内の案内看板でチェックポイント（※番号は別紙）をめぐり、スマートフォンでチェックし、既読無効に応じて、順番に交換できます。

1 100円 100円 100円	200円 200円 200円	4 クッキー クッキー クッキー	15 カフェオレベース カフェオレベース カフェオレベース
---------------------------	----------------------	---------------------------	--

手順3：景品に交換しに行こう!【水泳場前駐車場】
※景品の取替場にて景品と交換。お楽しみください。
※景品は1週間限定で取替可能。200円換金クーポンは、1フレンドパーク前会場は毎日換金可能。1フレンドパーク前会場は毎日換金可能。1フレンドパーク前会場は毎日換金可能。
※水泳場前では取替専用（景品自動販売機）を設置しております。ぜひお楽しみください!!

企画②：アプリを用いたデジタルスタンプラリー

デジタルスタンプラリー利用の流れ



NFC対応機種に
Horaiアプリをダウンロード+利用登録

高齢者の方などを対象に、
導入のお手伝いをしました。



Horaiアプリ内で
デジタルスタンプラリー購入（無料）



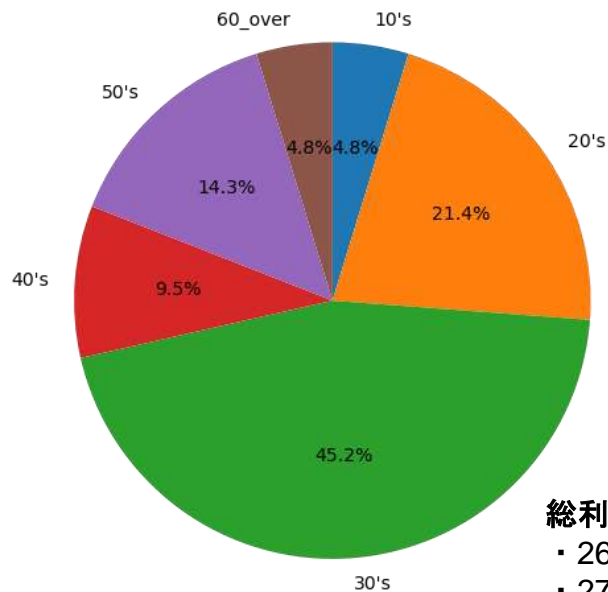
アプリ内で表示される
設置箇所と現在地を見ながら
巡る



各地に設置された
NFCタグにタッチ

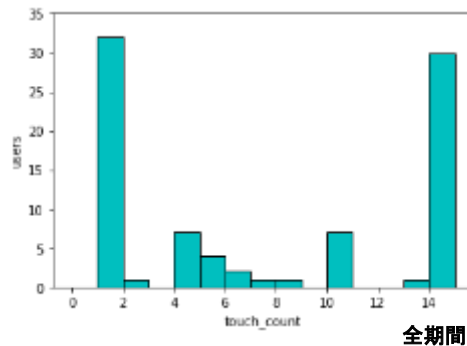
企画②：アプリを用いたデジタルスタンプラリー

スタンプラリー利用者の約半数が30代であった。特に、子連れでの利用が多かった印象。
訪問スポット数は、1箇所と15箇所に二極化した。
特典目当てで参加している人とスタンプラリーを楽しんでいる人の2種類いる。

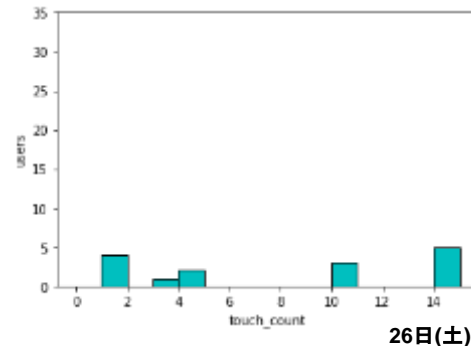


総利用者：65人

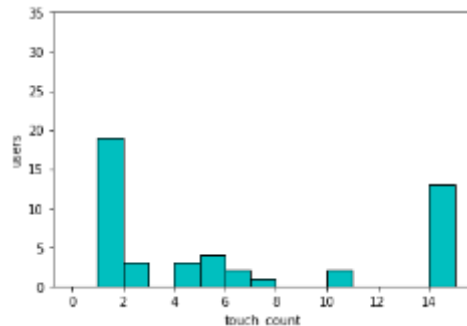
- ・ 26日：13人
- ・ 27日：39人
- ・ 28日：20人



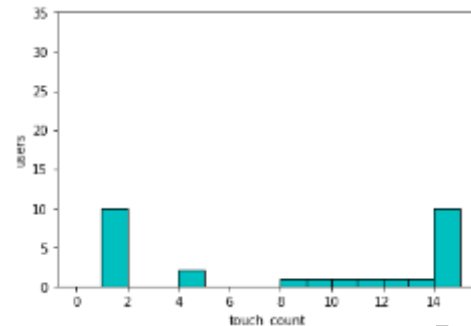
全期間



26日(土)



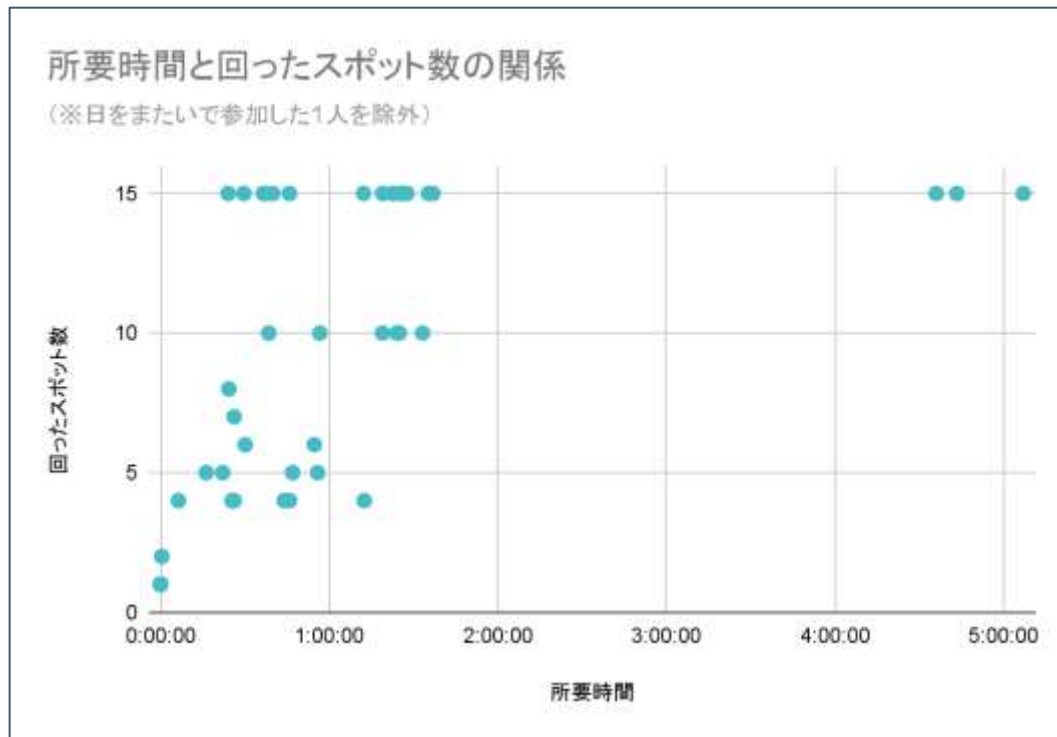
27日(日)



28日(月)

企画②：アプリを用いたデジタルスタンプラリー

多くの参加者は、所要時間2時間以内でスタンプラリーを回っている。より長時間かけて回ったり、複数日にまたがって回っている人もいる。土日の緑地利用者の声としては、スポーツ大会の合間であり所要時間が長いスタンプラリーに参加する時間が無い、というものもあった。



スタンプラリー特典引換希望者に対して実施したインタビューの結果

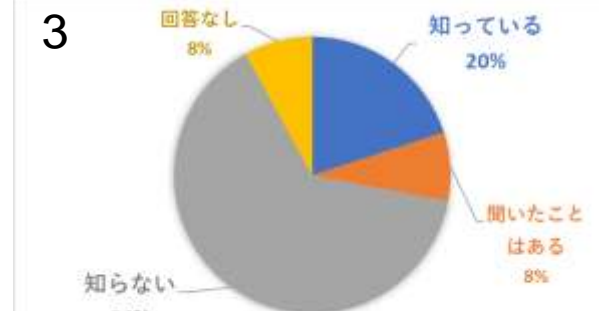
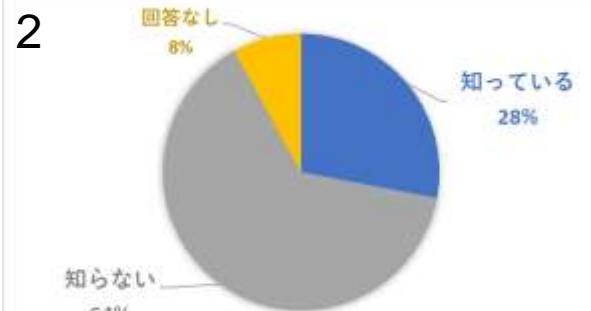
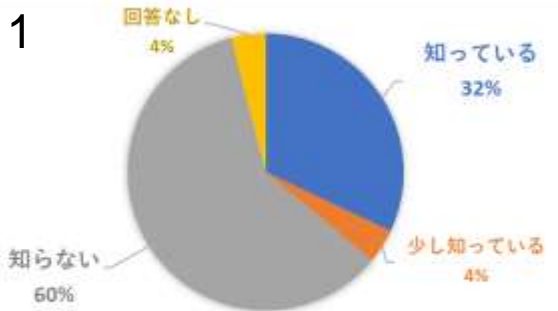
インタビュー項目

1. 回答者属性（年代・性別・居住地域・職業）
2. 周南市スマートシティ推進業務の取組を知っていましたか
3. モデル地区の取組を知っていましたか
4. 周南通報アプリを知っていましたか
5. 今回のイベントをどのように知りましたか
6. キッチンカー企画の評価
7. EV試乗の評価
8. スタンプラリー各スポットに対する印象・コメント
9. 今回、協働プログラム第一弾として開催しました。今後継続してほしいと思うことは何ですか？

企画②：デジタルスタンプラリー参加者に対するインタビュー

デジタルスタンプラリーの参加者の半数以上が、スマートシティ推進業務やモデル地区の取り組み・周南通報アプリについても知らないと回答。当日通りかかって参加した方も多いことが要因の一つとして考えられる。

1. 周南市スマートシティ推進業務の取組を知っていましたか
2. モデル地区の取組を知っていましたか
3. 周南通報アプリを知っていましたか



スタンプラリー特典引換希望者に対して実施したインタビューの結果

5. 今回のイベントをどのように知りましたか

→学校や企業経由でのチラシやHP、キッチンカーのInstagram、また当日通りがかって知ったとの声も。

5. キッチンカー企画の評価

→概ね好評で、定期的にあったらよいとの声も。

5. EV試乗の評価

→思ったよりもスピード感があった、操作性がよかった、静か、などの声。

5. スタンプラリー各スポットに対する印象・コメント

→いい運動になった、行ったことがないところに行けてよかった、少し遠かった、など

5. 今回、協働プログラム第一弾として開催しました。今後継続してほしいと思うことは何ですか？

→スタンプラリー、定期的に決まった日のイベント開催、地元企業の地域住民へのアピールの場など

その他の参加者の声

- ・（スタンプラリーに対して）子供も参加しやすい企画でよかった。
- ・スタンプラリーのおかげで、いつもより2000歩も多く歩けてよかった。
- ・新しいことには挑戦していきたいが、アプリの使い方がわからないことが多いので、今回みたいに教えてもらえる嬉しい。
- ・AIカメラというものを初めてみた。興味を持った。
- ・今後もキッチンカーがあると緑地に来るきっかけになると思う。
- ・チラシだけでなく、フリー雑誌などでも告知してほしかった。
- ・緑地周辺の店舗も含めて回れると面白いかもしれない。
- ・また次があったらスタンプラリーに参加したい。
- ・スタンプラリーのコースが少し長すぎる。
- ・受付のアピールをもっとしてほしかった。

企画③：キッチンカー企画 | 企画概要

公園内3ヶ所にキッチンカーを設置。デジタルスタンプラリーの特典として、キッチンカーで利用可能なデジタルクーポンを提供した。



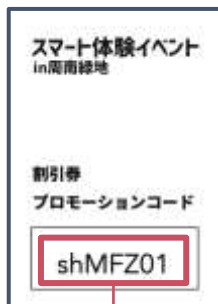
店頭に設置したNFCシート

企画③：キッチンカー企画 | アプリを用いたデジタルスタンプラリーとの連携

Horaiアプリを利用してユーザーIDを統合することで、スタンプラリーのポイント（≒健康ポイント）を利用して、キッチンカーの特典引換を行うというフローの実証を行った。



①スタンプラリーで
スポットを回る



②訪問スポット数に応じて
プロモーションコード（券）を発行



③プロモーションコードを
入力し、クーポンを獲得！

④スタンプラリーと同じように、店頭
のNFCにタッチしてクーポンを使用



3日間を通じて、59件の利用実績があった。

日にち	店舗名	出店場所	利用回数
11/26	cornetto	フレンドパーク前	2
11/26	Frutta	庭球場前	2
11/26	フェリーチェ	庭球場前	0
11/26	ヤキイモhofu	水泳場前	0
11/26	ビストロアマービレ	フレンドパーク前	1
11/26小計			5
11/27	Frutta	庭球場前	7
11/27	Organic and vegetable kupu	フレンドパーク前	9
11/27	フェリーチェ	庭球場前	6
11/27	花吉	フレンドパーク前	11
11/27	委託販売	庭球場前	0
11/27小計			33
11/28	bom tempo	庭球場前	3
11/28	フェリーチェ	庭球場前	0
11/28	ヒロヤマフーズぱちぱち屋	フレンドパーク前	12
11/28小計			15
合計			53

← 日曜日に最も多くの利用があった。

← 300円のたこ焼きが200円引きで食べられる、というお得感があったという声が多かった。引き換えのすぐとなりであったことも大きな要因。

キッチンカー：3日間で506,000円（合計12店舗）

委託販売：3日間で 58,700円

合計で、**564,700円**の売上が飲食関係であがった。

一方、緑地内スポーツ施設のイベントの有無に緑地利用者数が依存することもあり、平日の売上高はかなり低く、キッチンカー事業者からも出店は厳しいというコメントがあった。

事業者から見た周南緑地の印象

- 防府や広島に比べお金を使ってくれる印象
 - （軽食ではなく）お昼を購入する人が多い
 - 一方で、大規模マルシェに比べると客単価が低い

事業者から見た周南市の印象

- （緑地、市ともに）人が多い
 - 特に親子連れが多い
 - 平日は年配の人が多い
- 休日は午前中～昼、平日は午前中と夕方にニーズ
 - 大会参加後の昼食のニーズあり
- （緑地で初出店なこともふまえて）キッチンカーに珍しさがあり興味を引いた、喜ばれた

事業者から見た、周南緑地に出店するにあたっての課題、ニーズ、ほしい情報

- 平日もやる場合はスポーツイベント等があるとよい、普段の平日は採算的に厳しい
- 定期的に来たい
 - 中身は変わってもキッチンカーがあることが定期化すれば住民にイメージがつく
 - 定期でなくとも事前の告知の機会が重要
- イベントとして出店する以外にも、週末等に店舗単体で出店する、複数店舗で出店するなどが考えられる。
- 大会前後の需要が大きく、売れ行き商品、購入率が大会の対象層にも依存→大会の性質と客の性質の関係及び大会情報・イベントが知りたい。

企画④：超小型EV試乗

2日間を通じて、59人に試乗していただきました。（*試乗は土日のみ開催）



試乗車数	大人	子供	合計
11月26日（土）	17名	17名	34名
11月27日（日）	19名	6名	25名
合計	36名	23名	59名

<より長期の実証実験を想定した費用について>

今回実証実験のため費用が無料ないしは安価になったところもある。長期的な実験もしくは社会実装の際は以下のような費用が更にかかってくると思われる。

- アプリ使用料
(今回は弊WGが提供したため使用料無料としたが、本来は費用発生するもの)
- AIカメラの屋外対応(防水・防塵等のスペックを備える必要あり)
(公園設置の場合、**電気、通信、防水の3点が鍵**になる。)

<データ取得・分析の手段に関して>

AIカメラによる利用者数分析を精度の良いものにするためには、障壁が多くある。歩行の方向が多様である、同じ場所を何度も通過することが多い、などの公園特有の特性により、属性分析やユニークユーザーのカウントは難しい。

正確性を伴った実際の利用状況を知るためには、アプリ利用データ等の、AIカメラ以外の手段と組み合わせることが、有効な可能性がある。事業者を提供するような需要予測のためのデータも、人流データというより、スポーツ施設の利用・予約状況等の周辺施設の情報など、潜在的な顧客の情報に直接的に関係するようなデータの方が、ニーズが大きい可能性はある。

<キッチンカー企画+スタンプラリーを例とした、協働プログラムの継続性について>

- キッチンカー企画に関しては、事業者から今後も継続してほしいとの声もあがった。
- 一方で、企画運営コストや会場利用料金がかかり、それらはキッチンカー事業者も負担することになるが、キッチンカーによる経済効果(3日間の売上が56万円程度)があったのも事実である。
- 例えば、キッチンカー事業者から企画側が利用料金を取得し、それを原資にスタンプラリー企画や会場利用料にあてるというスキームなどで、今後も継続的に行える可能性はある。

第2回・第3回協働プログラムの企画概要

第5回 周南市スマートシティ推進協議会

令和5年1月20日（金）

第1回協働プログラム

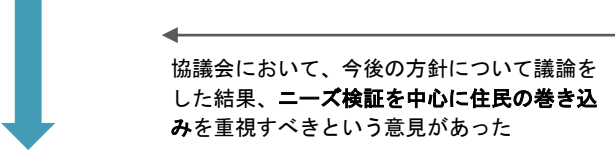
今回、第1回協働プログラムについての設計は、周南緑地公園における飲食機能の不足、AIカメラによる人流データの可視化、ウォーキングイベントの実施による健康増進など、昨年度のワークショップで市民から上がった課題や施策案を基に行った。

第2回・第3回 協働プログラム

第4回協議会におけるフィードバックも踏まえ、第2回協働プログラムにおいては、第1回協働プログラムで主なターゲットとしなかった

- ・ 緑地以外も含めたモデル地区において
- ・ 回遊以外での重要な課題となる「福祉・コミュニティ」をテーマとして、ニーズ検証に重点を置く方針とする。

また、第3回協働プログラムでは、様々な立場・生活状況にある市民との対話を通して、市民のニーズや目指すべき未来像に関する共通の方向性について調査すると共に、市民のスマートシティに対する社会受容性を醸成することを企図した「市民ダイアログ」を実施する。



協議会において、今後の方針について議論をした結果、ニーズ検証を中心に住民の巻き込みを重視すべきという意見があった

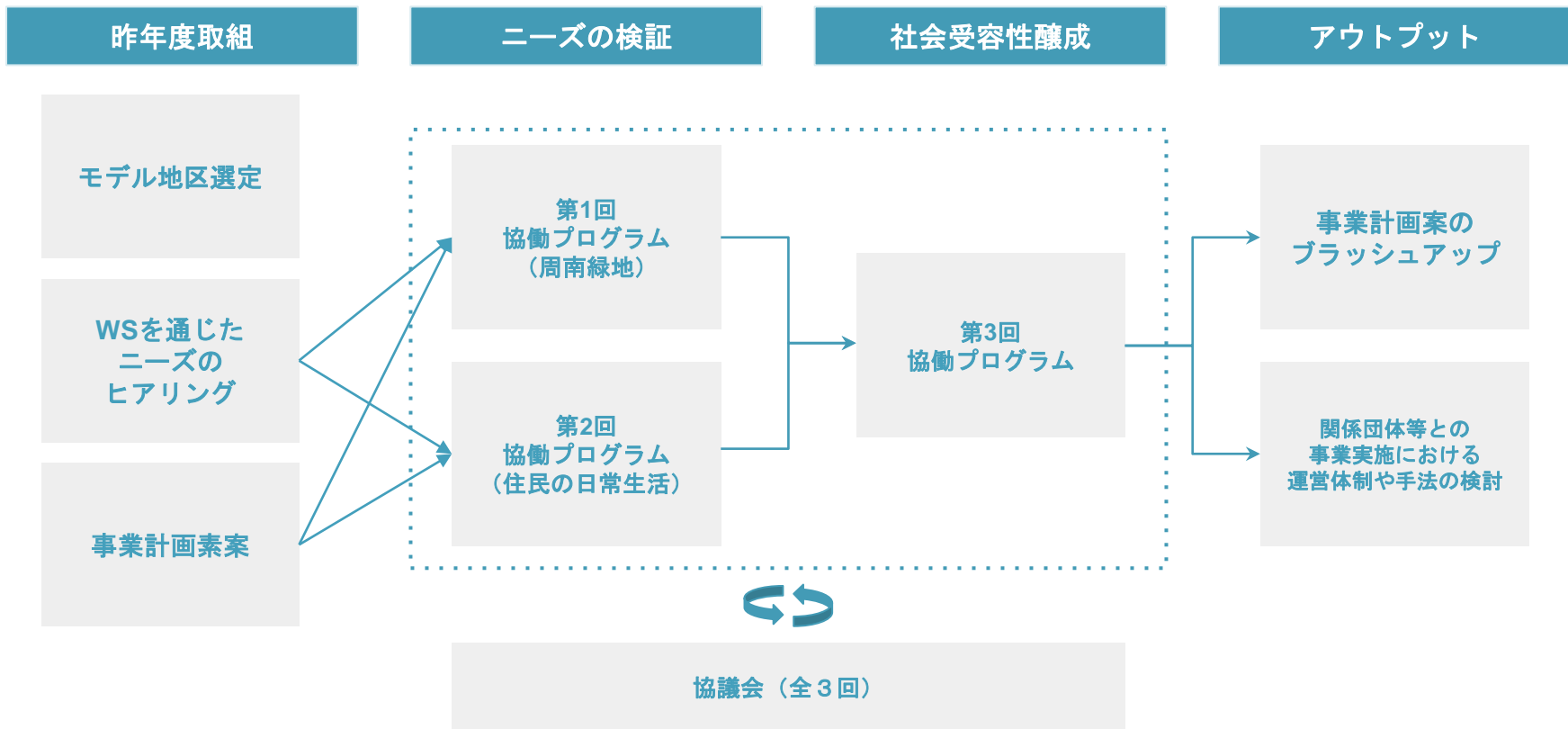
協議会からのフィードバック

第4回協議会での意見

- 「コミュニティが基本なので、コミュニティがどういうことを不便に思っているか、何をしたいと考えているかに向き合い、コミュニティとの距離が近いスマートシティであることが重要だと、今日の議論を聞いて改めて思った。」
- 「モデル地区住民や関連団体の方からのフィードバックをどうもらうかが重要」
- 「デザイン思考やアジャイルに関して、まさにスマートシティ、DXを活用した市民課題の解決はこういった手法で行われるべきだと思っている。」

昨年度取組内容と今年度取組内容の繋がり

第2回では引き続きモデル地区におけるニーズの検証を行い、第3回では次年度以降の実証実験や社会実装を見据えてスマートシティに対する市民の社会受容性醸成を目指す



協議会

第1回

- 11/7「第4回周南市スマートシティ推進協議会」
 - 令和4年度スマートシティ推進事業のキックオフ
 - 第1回協働プログラム企画に対するフィードバック
 - コンソーシアム体制構築に向けたステークホルダーの巻き込み方に関する検討

第2回

- 1/20「第5回周南市スマートシティ推進協議会」
 - 第1回協働プログラム後の参加者へのヒアリングによって洗い出された課題や取り纏めに対するフィードバック
 - 第2回・第3回協働プログラム企画に対するフィードバック

第3回

- 3/22「第6回周南市スマートシティ推進協議会」
 - ブラッシュアップした事業計画案を踏まえた次年度の進め方についての検討
 - 具体的な予算執行の仕方および住民・市民や大学・学校、地元企業による自律的・継続的な協働についての検討

協働プログラム

■ 11/26,27「スマート体験イベント in 周南緑地」

- 昨年度提案された方向性の「検証（＝概念実証/PoC）」
- 既存のソリューションを用いた概念実証・体験
- サンプルデータの収集と高校・大学を巻き込んだ分析
- 課題の洗い出し、あるべき姿や仕様の具体的な検討

■ 2/11-12「周南リビングラボ協働イベント(仮)」

- 福祉やコミュニティをテーマに当事者からニーズのインプット
- 上記テーマに即して大学生を巻き込んだプロトタイプ発案
(※周南公立大 周南リビングラボと協働予定)

■ 3/12(予定)「市民ダイアログ(仮)」

- 「ダイアログ形式※」による市民との対話を通じたスマートシティについての話題・アジェンダの調査
- 参加者および周囲の人々のスマートシティに対する受容性の醸成
(※ダイアログ形式については、「第3回協働プログラムの企画概要」のスライドで詳述)

第2回協働プログラム企画概要

<背景>

- ① 昨年度のWSにおいて、福祉・コミュニティに関する課題および施策案が複数挙げられていたが、第1回の協働プログラムでは扱わなかった
- ② 第1回協働プログラムでは実証を行う場所が周南緑地に限定されていたため、緑地外のモデル地区におけるニーズ検証が必要であること
- ③ 第4回協議会において、住民の課題から取り組みが乖離しないように常に注意し、ニーズの検証を中心に住民の効果的な巻き込みを重視するという今後の取り組みに関する方針が提案された。

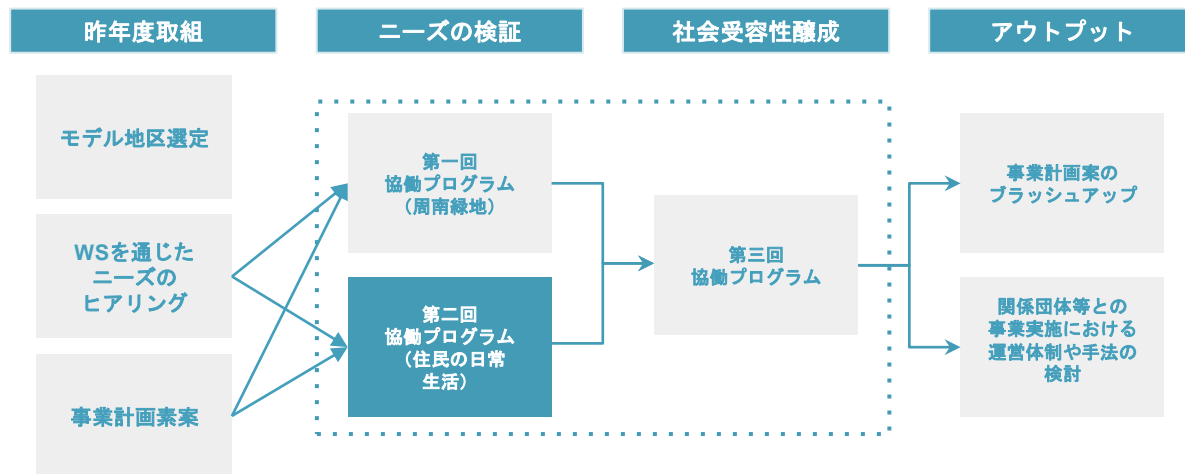
<テーマ設定の根拠> (昨年度事業で上がった課題および3つのテーマとの整合性)

テーマ	対応する3つのテーマ	昨年度事業で挙げられた課題・施策案
福祉	ウォーカブル&ウェルネスタウン化	<ul style="list-style-type: none">・坂道が多い地形を踏まえ、お年寄りの徒歩移動に対するサポートが必要・歩く楽しみや自らの健康を実感できる仕組みが必要
	セーフティタウン化	<ul style="list-style-type: none">・子供や高齢者が安心して行動できる見守りの仕組みが必要・AIカメラ等を用いた見守りサービスの提供・高齢者、子どもが所持するスマホからWiFi接続状況を特定し見守りサービスの提供
コミュニティ	ホームタウン化	<ul style="list-style-type: none">・子供を遊ばせに来た子育て中の親同士が繋がるなど、来訪者をつなぎ情報交換の場となるようなコミュニティ作りが必要
	セーフティタウン化	<ul style="list-style-type: none">・地元企業の地域活動への協力や、自主防災組織の活性化など地域コミュニティの強化

第2回協働プログラム企画概要

<今後の取り組みとの繋がり>

- 第2回協働プログラム実施の意図は、昨年度あげられたニーズのうち第1回で扱うことができなかったものを検証し、**ソリューションのプロトタイプを作成すること**である。
- 第1回の協働プログラムと合わせて、**住民からのフィードバックを回収し**、そこから得られた知見や新たに発見された課題をもとにして、次年度実施する実証実験の取組内容をブラッシュアップしていく。
- また第1回、第2回で実施した取り組みやそこから得られた知見・課題は、**第3回市民ダイアログで参加住民に事前情報として共有する**予定である。これらの取り組みを通じて、参加住民にスマートシティに関する取り組みの概況を同期し、住民と歩調を合わせながら進めていくことによって**スマートシティに対する住民の受容性を醸成する**。



「福祉・コミュニティ」をテーマとして、第4回協議会においても重要性が指摘されたデザイン思考のフレームワークに則り、プロトタイピング（＝試作）を行う

<開催概要>

- ・日時：2/11(土) - 2/12(日)
- ・場所：市役所or大学or遠石市民センターを想定

<参加者>

- ・周南公立大学 赤木講師＋大学生参加希望者（周南リビングラボ）
- ・周陽・遠石地区お住まいの方
- ・第1回協働プログラムに参加された住民の方
- ・周南市ふるさと振興財団 國兼様（テーマ「コミュニティ」）
- ・周南市社会福祉協議会 山本委員（テーマ「福祉」）

※デザイン思考

ユーザー視点に立ってサービスやプロダクトの本質的な課題・ニーズを発見し、課題を解決するための思考法。観察・共感、定義、概念化、試作、テストの5つのステップを通して、課題の解決を図る。

<当日スケジュールのイメージ>

2/11(土) 午後：福祉・コミュニティをテーマに当事者目線でのニーズについて委員からレクチャー

（※各テーマ発表者と、スマートシティに即したニーズについて共有できるようレクチャーの内容は打ち合わせ中）

2/12(日) 午前：グループに分かれてプロトタイプ発案（詳細は赤木講師と調整予定）

2/12(日) 午後：グループごとに発表、委員等からの講評

第1回、第2回協働プログラムで検証した市民ニーズを満たす手段やアプローチの検証を来年度以降の実証実験にて行う準備として、第3回協働プログラムとして市民ダイアログを開催する。

<開催概要>

- ・日時：3/12（日）を想定
- ・場所：遠石市民センター大会議室を想定

<市民ダイアログ開催の背景・目的>

スマートシティのステークホルダーが集まり、様々な立場・生活状況にある人々に共通するような、次年度以降の実証実験および実装における話題・アジェンダを、対話を通じて調査することが目的である。現時点でのプロダクトやサービスではなく、目指すべき未来像の検証を行う。また、過去の協働プログラムで得たデータや知見を基に、市民による市の今後のスマートシティに対する青写真を描く。

また、この場を通じて参加者および周囲の人々のスマートシティに対する受容性醸成につなげる。

<ダイアログ形式について>

市民ダイアログでは、異なる意見が共存する環境をつくり、そのなかで共通して取り組んでいけることを見つけることが重要であり、それが周南市でのスマートシティにおけるアジェンダ設定や、来年度以降の実証実験計画につながる。年齢・性別・職業、あるいはスマートシティとの距離感などが異なるような様々な市民を呼んで、何が本当のニーズなのか、それが共通の方向性たりうるのかを対話を通じて探る。

このようなことを達成するために、企画者自身も（ファシリテーターではなく）モデレーターとして議論に参加し、市民の意見を観察する。市民の発言の引き出し・言い換え・深掘りをできるひと（＝モデレーター）が、対話の中にいることで、異なる意見をぶつけて結論を検討するような議論ではなく、異なる意見を集め、共存させ、それらの間で共通して取り組むべきアジェンダを発見できるような場を作っていく。